

---

# ある美食家の最後

ふぁんふぁ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ある美食家の最後

### 【Nコード】

N9823L

### 【作者名】

ふあんふあ

### 【あらすじ】

新潟の青年が料理人となり、美食家になった。そして、彼は信じていたものに裏切られる。

新潟の片田舎の長男として生まれた権平一郎太は、十六のとき家を出て、東京の上野へ向かった。

幸せとはい難い十八までの土方としての働きの後、体を壊してレストランで働くこととなった。

そのレストランは、当時のモダンをとりこんだフランス料理を出す店で、二十四のとき人手不足が元で一郎太はスープ係のシェフになる。

シェフをはじめた一郎太は、めきめきと頭角を表し、ついにはオーナーである料理長を次いで第二位の副料理長にまで登り詰めた。そして一郎太が四十になった頃、世話になったオーナーが亡くなると。店一番の古株で、店一番となった腕の持ち主として、そのレストランを相続することになった。

一郎太はオーナーが遺した店を大きくした。

普段民には手の届かなかったフランス料理を、なんとか普段民の元へ届けようと、徹底的な費用削除を行った。

彼にはわからなかった。田舎者である故に。叩き上げの努力者であるもの故に。

一郎太は店員達の給料を削った。そして恨まれた。

一郎太が五十を数えた頃、朝早くフォンの仕込みに出かけた彼を、その店で働く若い原宿男に殺されかけたのだ。

金属バットで頭を撲られ。頭骨の右半分に痺が走った。硬膜に出来た血の塊が、彼の脳を穿った。

彼は店を辞めた。

自分にはもう料理は創れまい。僕には味覚が無くなったのだ。

ただ、彼とて人間であり、働かねば食ぬ。

そして、出版社の友人と協力して、美食家の仕事をはじめたのだ。彼は当たり障りない評論で店を評価した。大概、美味そうなものは美味しいと言い。奇抜な料理は酷評した。

そして、その仕事を繰り返したうちに、様々な料理を食べ。そして下した。

ある日、友人と共に創作料理の店に遣って来た。

正しい料理であった。ただ、その奇抜さと薄い味付けを友人は酷評した。

だから一郎太は酷評した。普段民の友人に従って。

そして、彼は殺された。

彼を試そうとしたその創作料理をこさえた料理人が、河豚の白子の吸い物に、河豚の卵巣を忍ばせて。

味覚があれば、その痺れに気付いただろう。

だが彼は信じた。蒙昧な信仰によって。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9823/>

---

ある美食家の最後

2010年10月16日09時02分発行